

# 【講義 6】古典籍における絵入り写本（絵巻・絵本）

小林健二

## 一、はじめに

日本の古典籍の中には絵巻や絵本、そして絵入り版本など絵をともなった形態のものが多い。これらは挿絵入りの小説や漫画（劇画）という現代日本におけるビジュアル・カルチャーの源泉ともなるのであるが、ここでは、古典籍を扱う中で出会う機会が多いと思われる、「奈良絵本」と呼ばれる絵入り本写本、つまり室町末期から江戸前期に作られた絵巻や絵本の実態について学ぶ。

## 二、絵巻・絵本の歴史

日本における絵入り写本の流れを概括すると、奈良時代に仏伝經典を題材として下段に経文を写し、上段に挿絵を描いた『過去現在因果経』絵巻が制作されたのをはじめに、平安時代には、『源氏物語絵巻』『伴大納言絵詞』『信貴山縁起絵巻』などの物語や説話、寺社の縁起を題材とした絵巻や『鳥獣人物戯画』のような滑稽絵を描いた絵巻も登場し、鎌倉時代には、前代の画題に加えて合戦や伝記を題材とする作例が加わって、『蒙古襲来絵詞』『石山寺縁起絵巻』『法然上人絵巻』など多種多様な絵巻が作られるようになる。これらは美術品としても高い評価を受けている。

室町時代に入ると、<sup>あめわかひこ</sup>『天稚彦物語』『小敦盛』や狩野元信筆『酒伝童子絵巻』など、お伽草子と呼ばれる物語を題材とした絵巻が制作され、16 世紀になると土佐光信筆『狐草子』をはじめとする小絵と呼ばれる天地の幅が 20 センチ未満の小型の絵巻が登場する。さらに、室町末期には大型の絵本の作例もあらわれて、次代の奈良絵本につながる。

## 三、奈良絵本の時代

奈良絵本とは、室町末期から江戸前期にかけて制作された彩色絵入りの絵巻や絵本の総称である。印刷された書物とは異なって、手作業で作られており、素朴な図柄を持つ小品から豪華で大部な作品まで様々な形態の絵本・絵巻が作られた。寛文・延宝年間（1661 ～ 81）を最盛期として、京都の絵草子屋によって作られたと考えられ、17 世紀の後半は絵入り写本の全盛期と言ってよい。

一部の絵巻・絵本に見られる素朴で古雅な図柄が、奈良の土産物などに描かれる奈良

絵と類似することから、明治時代以降に「奈良絵本」と称されてきたが、京の扇屋の流れを汲むと思われる絵草子屋「城<sup>き</sup>殿<sup>どの</sup>和<sup>い</sup>泉<sup>ずみの</sup>尉<sup>じょう</sup>」の印を持った作例もあることなどから、実際には京都を中心に制作されていたことが明らかとなっている。

石川透氏によって、わずかながら記された署名などを頼りに、仮名草子や往来物の作者との筆跡比較の調査が進み、江戸前期に活躍した朝倉重<sup>しげかた</sup>賢や浅井<sup>りょうい</sup>了<sup>い</sup>意<sup>そめ</sup>、居初つななど、具体的な筆者とその活動についても明らかになってきている。浅井了意は仮名草子の作者としても有名で、絵巻・絵本の制作にも関わっていた可能性がある人物として注目される。

#### 四、奈良絵本の題材

平安時代の王朝物語から江戸時代初期の仮名草子まで多彩である。

- 王朝物語『竹取物語』『伊勢物語』『源氏物語』
- 軍記物語『平家物語』『曾我物語』『義経記』
- お伽草子 室町時代から江戸前期に作られた短編の物語群。現存約 420 種類。
- 幸若舞曲 室町時代に流行した語り物芸能。
- 仮名草子 江戸前期に作られた平仮名主体の物語。啓蒙的な内容が多い。

#### 五、国文研蔵の資料から見る奈良絵本の様々な形態

- 小絵巻『夢草紙（うたたねそうし）』

DOI : 10.20730/200003083

[請求記号] 99-30

[形態] 天地幅 16.0 センチ、卷子本 1 軸、金欄表紙、金砂子撒見返し、料紙鳥の子。

※室町末期に制作された小絵巻

- 大型の絵巻『ふんしやう（文正草紙）』

DOI : 10.20730/200021064

[請求記号] 99-192-1~3

[形態] 天地幅 34.2 センチ、卷子本 3 軸、金欄表紙、金布目押し見返し、料紙金泥等下絵鳥の子、箱書き「文正絵巻物／三まき」。

- 大本の絵本『しつか（静）』

DOI : 10.20730/200003085

[請求記号] 99-32-1~2

[形態] 30 × 22 センチ、袋綴2冊、紺紙金泥絵表紙、金布目押し見返し、料紙金泥等下絵鳥の子。

○横本の絵本『ふんしやう（文正草紙）』

DOI : 10.20730/200008317

[請求記号] タ4-56-1~3

[形態] 17 × 25 センチ、袋綴3冊、紺紙金泥絵表紙、色紙金箔散し見返し、料紙鳥の子、蔵書印「桂氏蔵書」。

○半紙本の絵本『伊勢物語』

DOI : 10.20730/200024801

[請求記号] 98-221-1~3

[形態] 23.8 × 17.2 センチ、列帖装3冊、金欄表紙、金布目押し見返し、料紙金泥下絵鳥の子、蔵書印「鉄心斎文庫」。

#### 六、国文研蔵の模本資料

模本は原本をそのまま写したもの。模本の作成は技法習得上で重視され、江戸時代には修業の第一条件とされて盛んに行われた。そのため多くの模本資料が存する。

○模本 平治物語絵巻

DOI 10.20730/200015138

[請求記号] ヨ1-155

[形態] 43.7 センチ、卷子本1軸、三条殿夜討巻存、空題簃、表紙裂破損

（奥書）「詞書／正三位家隆卿／王峰為則段／繪／住吉法眼慶恩／文化甲戌晩冬寫／藤原守道」。

#### 参考文献

○奈良絵本国際会議編『お伽草子の世界』三省堂、1982年

○徳田和夫編『お伽草子事典』東京堂、2002年

○石川透『奈良絵本・絵巻の生成』三弥井書店、2003年

○石川透『奈良絵本・絵巻の展開』三弥井書店、2009年

# 古典籍における絵入り写本 (絵巻・絵本)

小林 健二

# 小絵巻『夢草紙（うたたねそうし）』（1）





# 小絵巻『夢草紙（うたたねそうし）』（2）

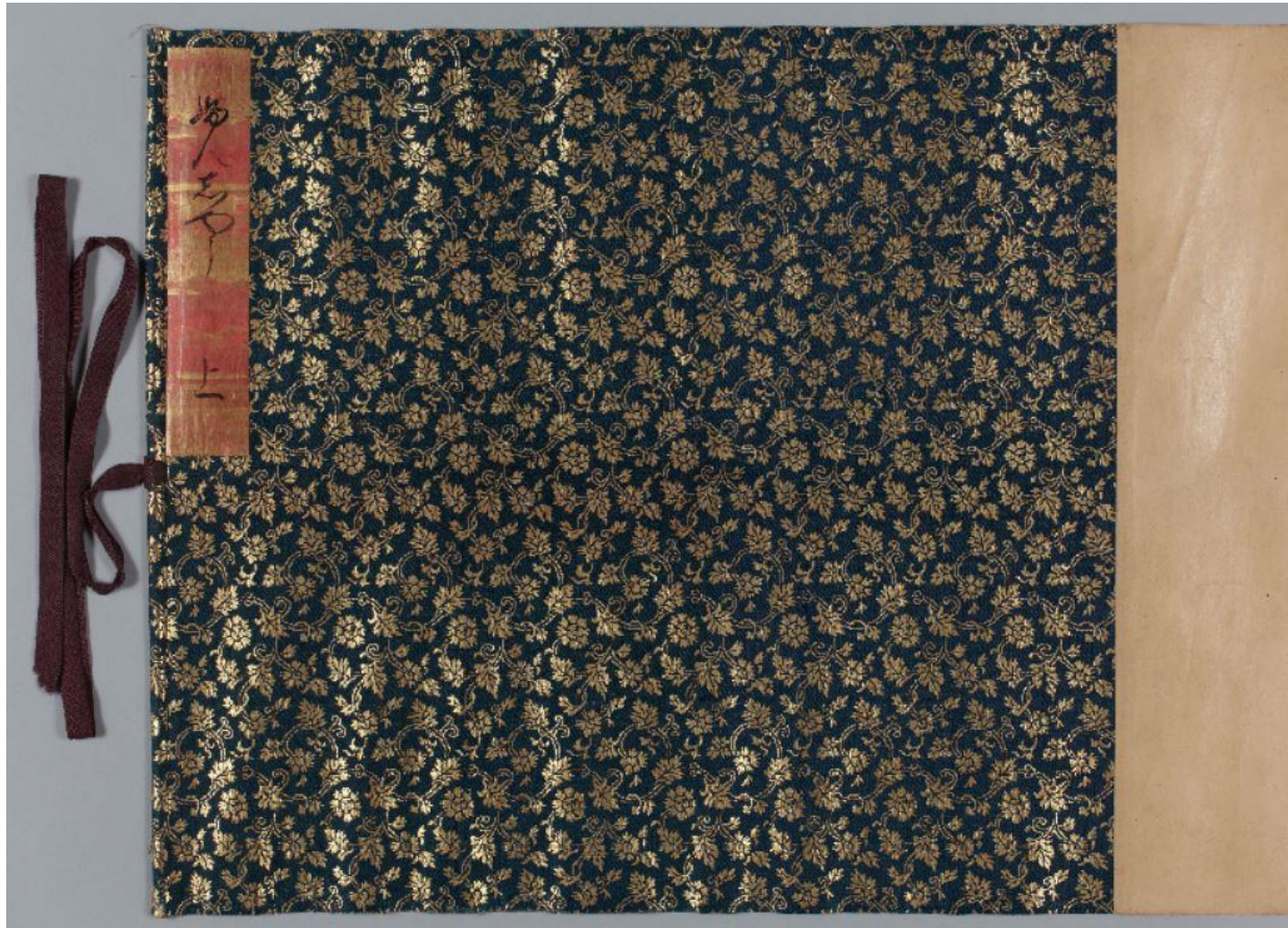


# 大型の絵巻『ふんしやう（文正草紙）』（1）





# 大型の絵巻『ふんしやう（文正草紙）』（2）





# 大型の絵巻『ふんしやう（文正草紙）』（3）



# 大型の絵巻『ふんしやう（文正草紙）』（4）



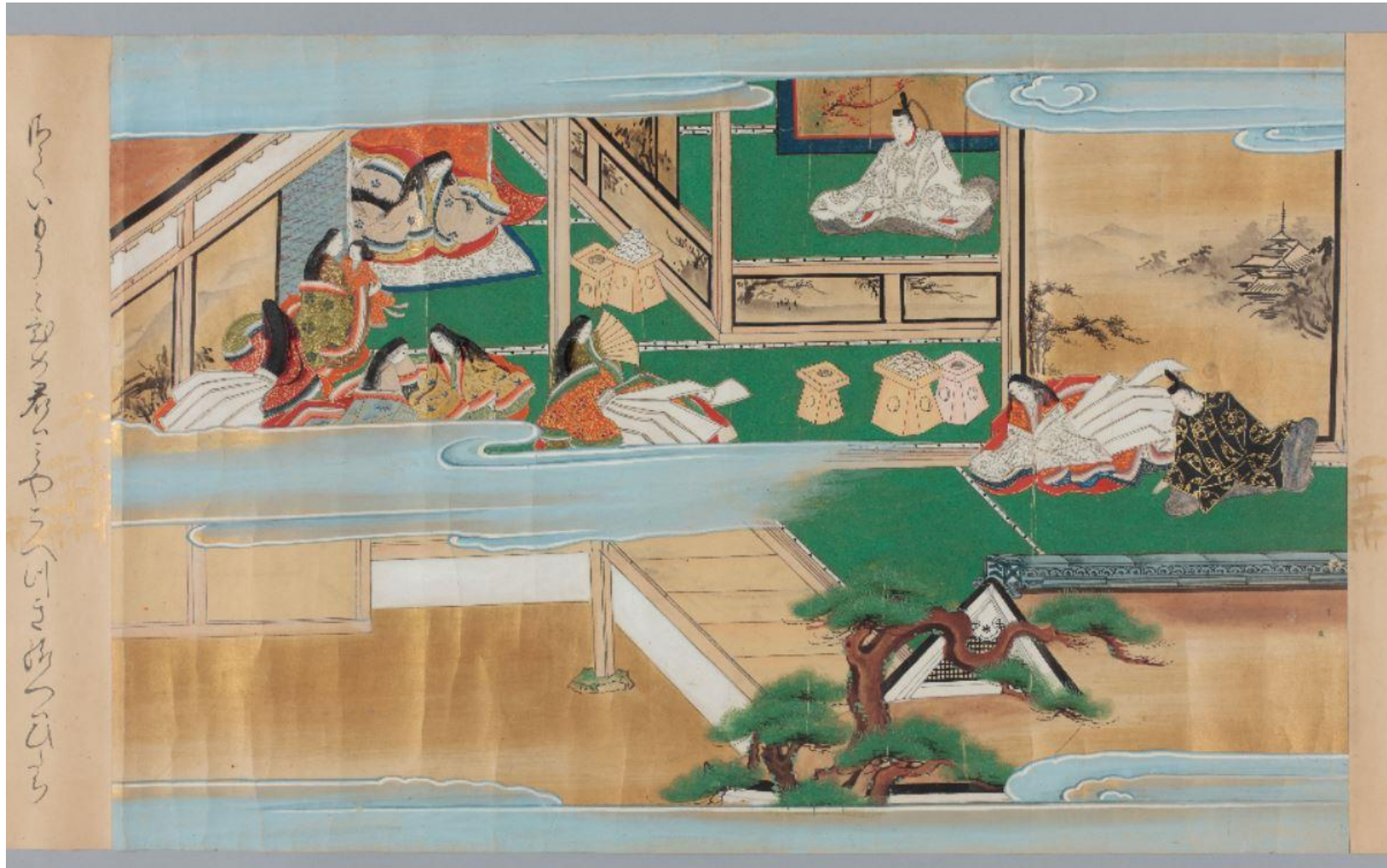


# 大型の絵巻『ふんしやう（文正草紙）』（5）

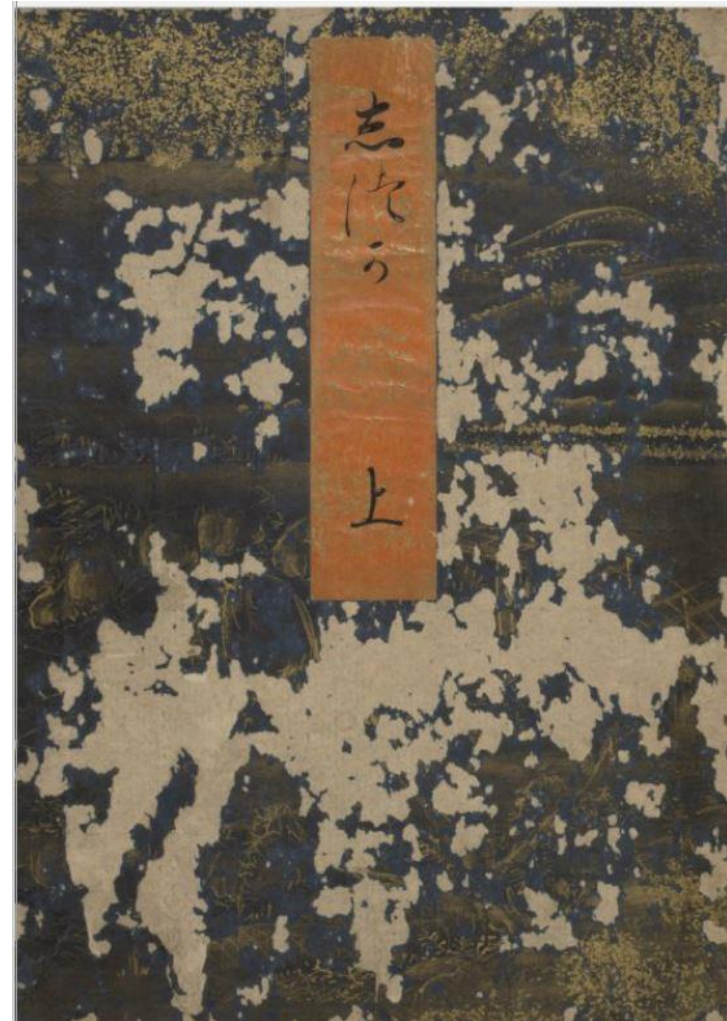




# 大型の絵巻『ふんしやう（文正草紙）』（6）



# 大本の絵本『しつか（静）』（1）





# 大本の絵本『しつか（静）』（2）





# 大本の絵本『しつか（静）』（3）



# 大本の絵本『しつか（静）』（4）



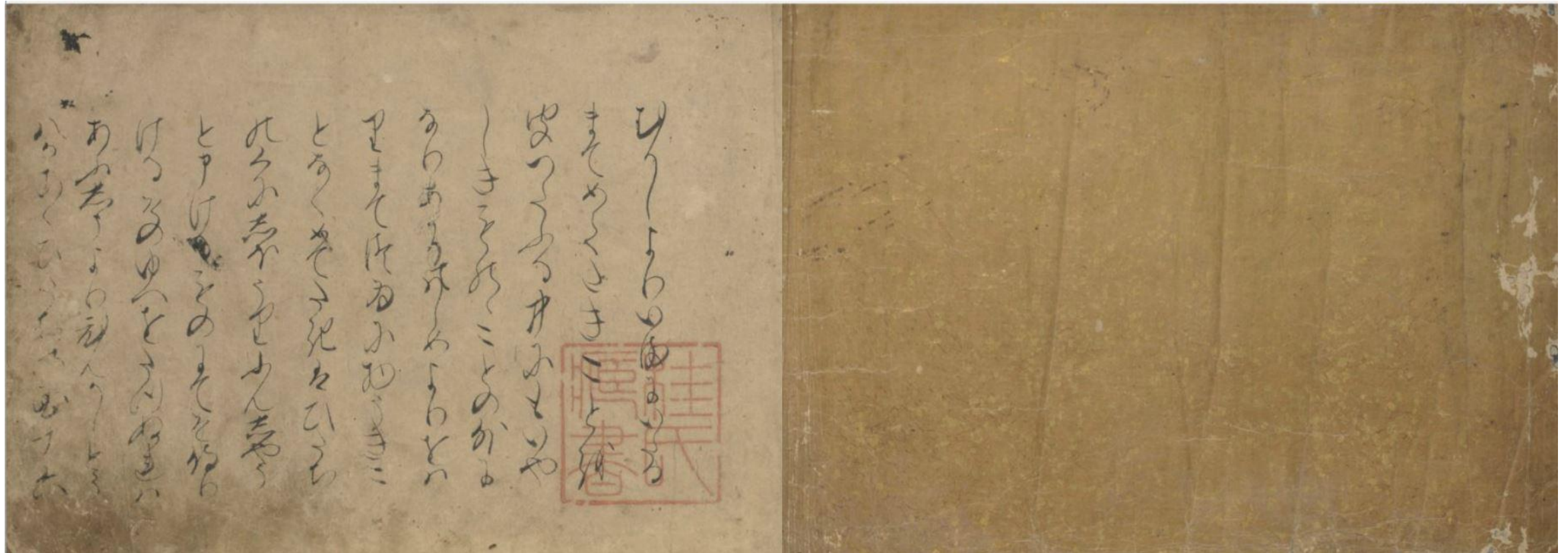


# 横本の絵本『ふんしやう（文正草紙）』（1）





# 横本の絵本『ふんしやう（文正草紙）』（2）



# 横本の絵本『ふんしやう（文正草紙）』（3）



# 横本の絵本『ふんしやう（文正草紙）』（4）



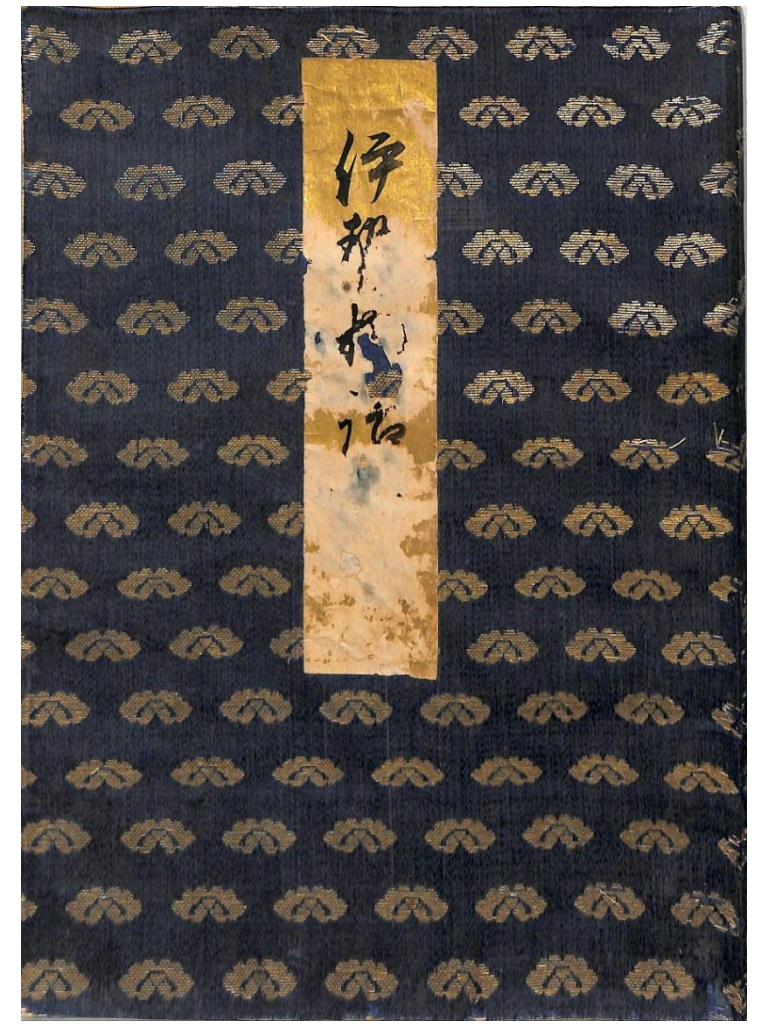
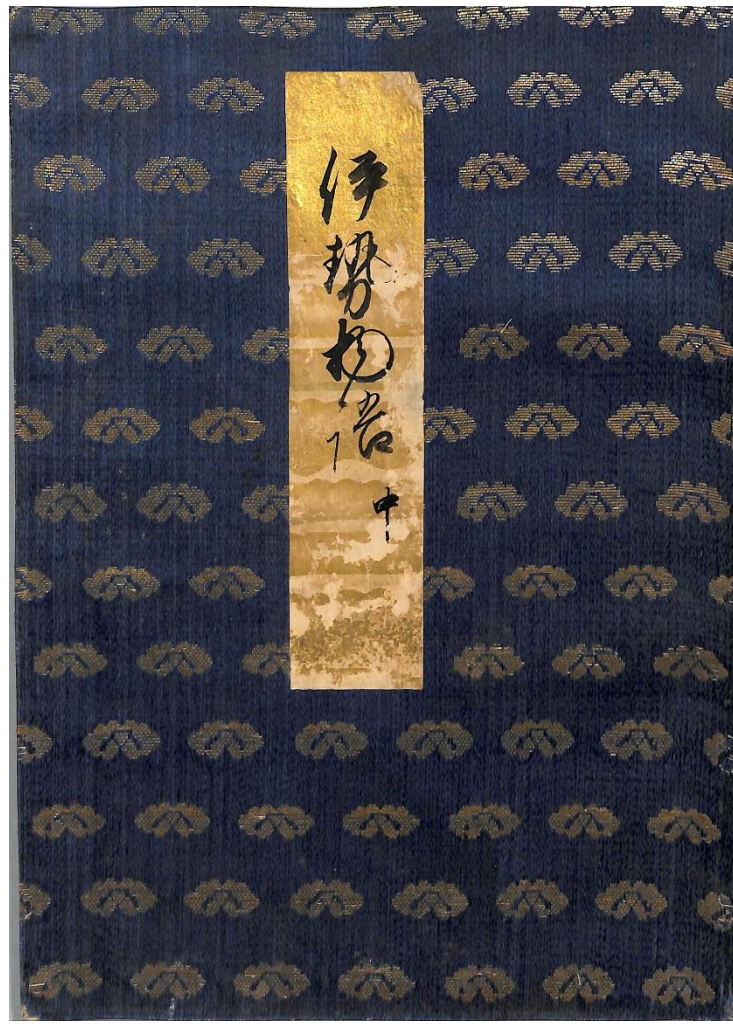


# 横本の絵本『ふんしやう（文正草紙）』（5）





# 半紙本の絵本『伊勢物語』(1)



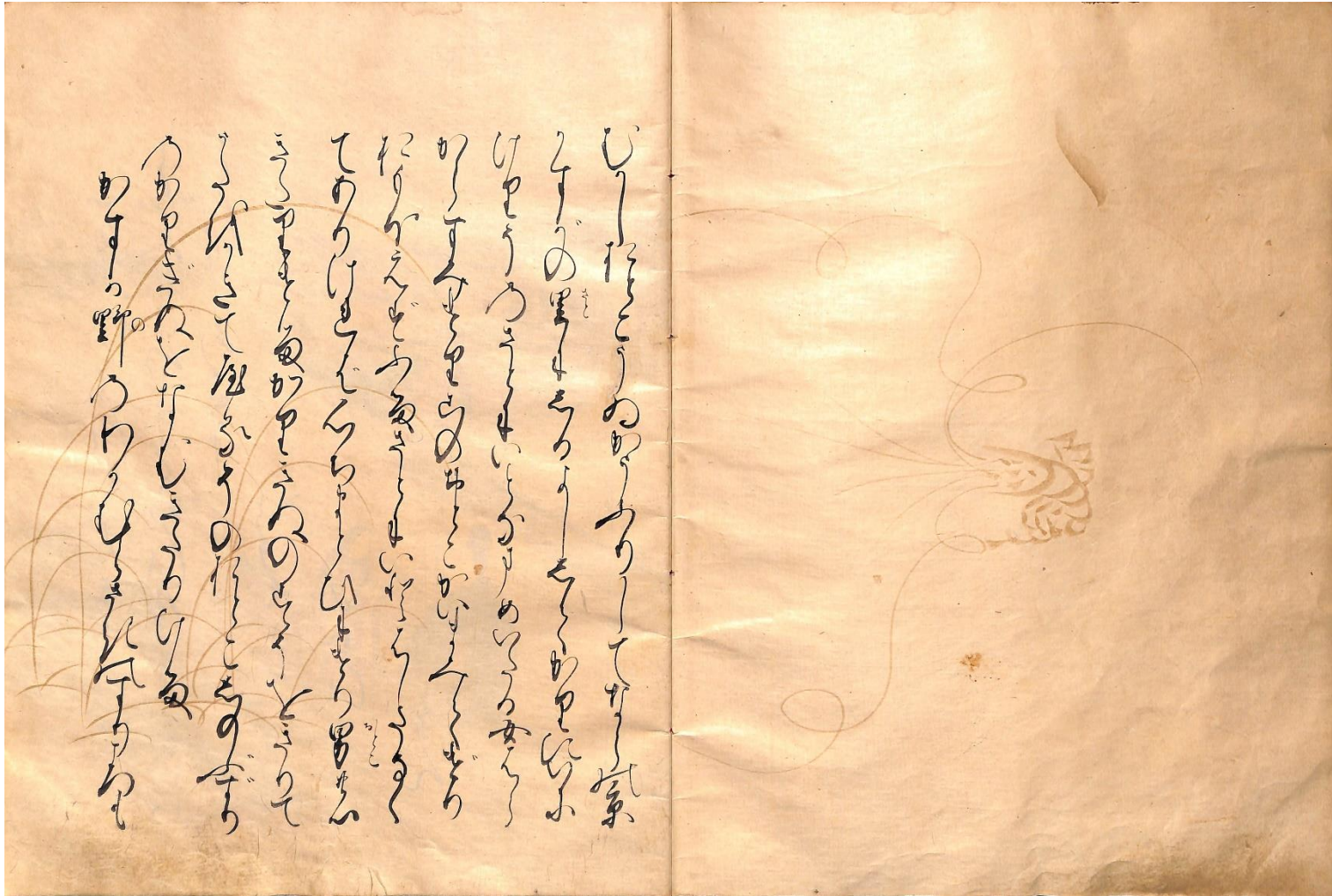


# 半紙本の絵本『伊勢物語』(2)





# 半紙本の絵本『伊勢物語』(3)



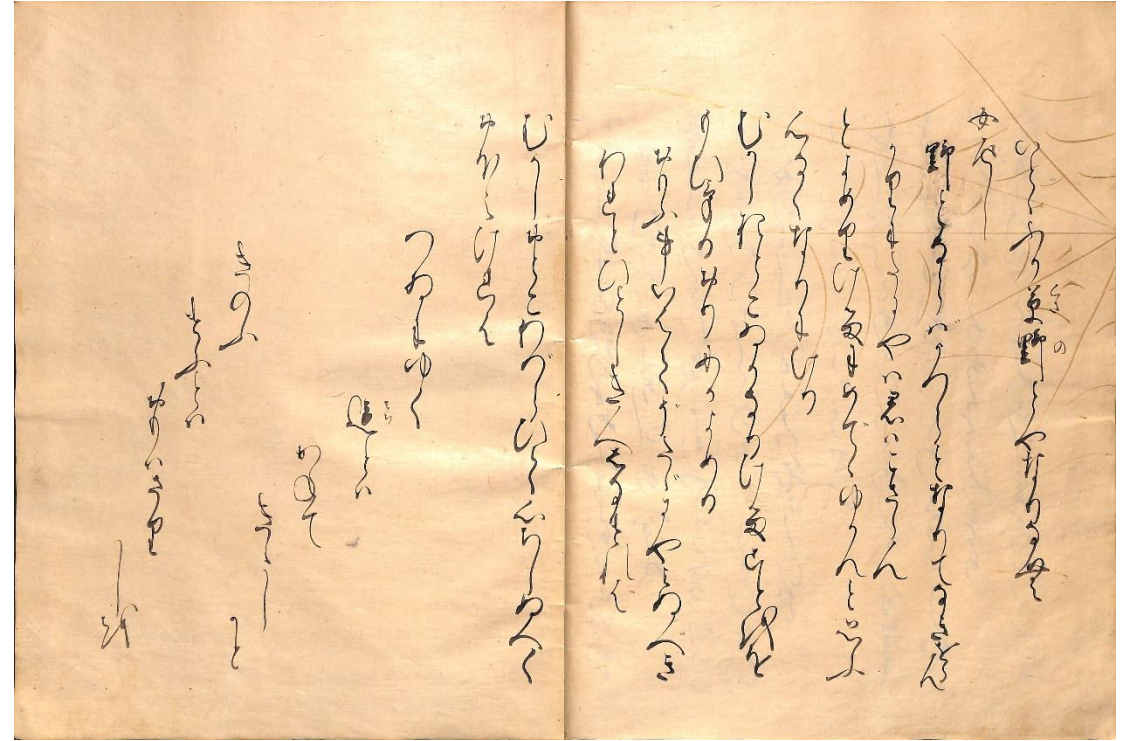
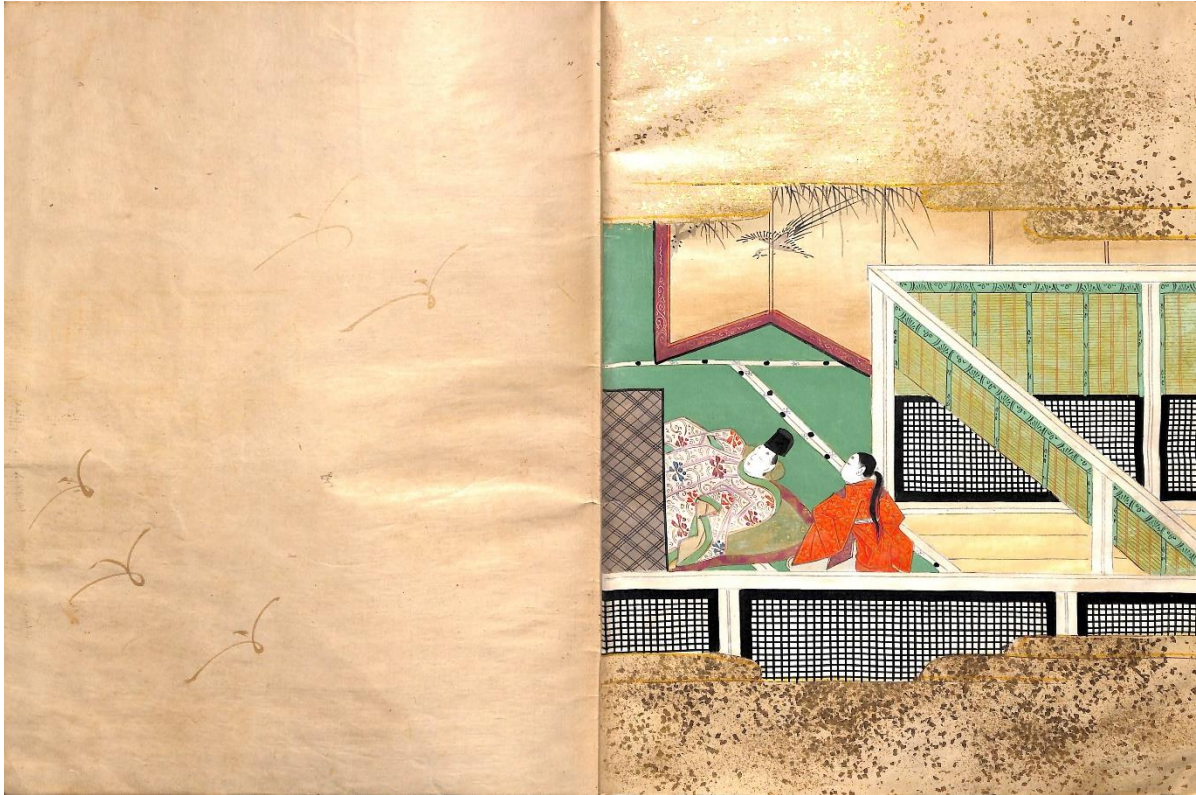


# 半紙本の絵本『伊勢物語』(4)





# 半紙本の絵本『伊勢物語』(5)





# 模本『平治物語絵巻』(1)



# 模本 『平治物語絵巻』 (2)





# 模本 『平治物語絵巻』 (3)





# 模本 『平治物語絵巻』 (4)

